

五月十六日

唐十郎の紅テント公演「泥人魚」の評判が良い。出掛けてみようかな。唐の健在振りが確認できるのか。院レクチャーはヨーロッパ型ハイテク建築について、イギリス、ドイツの事例を介してイギリスのハイテクは深くイギリスのファンタジーに源を発しているとは私はにらんでいる。アレはイギリスの秘密の花園なのだ。

五月十七日

十時四五分新宿待ち合わせ。朝山、黒金牧師、ルーカス、安藤。朝山邸さいたま市地鎮祭。指扇駅で娘さんも合流。キリスト教式の地鎮祭は初めてであったので興味深かった。マタイによる福音書第7章<sup>24</sup>節<sup>25</sup>節、それで、私のこれらの言葉を聞いて行うものを、岩の上に自分の家を建てた賢い人に比べることができよう。雨が降り、洪水が押し寄せ、風が吹いてその家に打ちつけても、倒れる事はない。岩を土台としているからである。そう述べた、牧師は聖書を土地に埋めた。そして、これから家は主キリストの上に建てられると述べた。つまりキリストのロゴスを礎として建てられると言ったのだ。日本の地鎮祭との余りの違いに仰天した。我国の地鎮祭はこれと比べれば余りにも視覚的なモノである。シメ縄を張り結界とし神が昇天して、降臨する。見えぬ神を様々な仕草や仕掛けで、儀式として暗示しようとする。キリスト教の地鎮祭は言葉で、これから建てられる家はキリストの上に

建てられると言う。キリストとは言葉で、すなわち、それは聖書だ。それ故それを大地に埋める。「でも牧師さん、主キリストは天にいますでしょ、大地に住んでいるのじゃないのでは」と聞いたら牧師曰く、「大地は主が造りました」西欧のロゴスを身近に感じた。

修了後大宮で朝山さん親子と食事。高校生のいい娘さんだ。食事後藤沢へ。十七時四十分頃六会日大前、ルーカスの連中、森川、柴原と駅で会い。高稿さん宅へ。住宅案プレゼンテーション。TVカメラの前でのプレゼンテーションであったが、もう全くカメラは気にならなくなってしまっている。二案を提案。一つを選んできた。太径の木を使った案を軸に進めてゆく事になる。予想通りであった。進行性の難病を抱え込んだ御主人の部屋その他を見て学ぶ。二〇時頃修了。二十二時頃世田谷村に戻る。向井が一人、残って仕事していた。チョツと話して、上で遅い食事。今日は埼玉、神奈川、二ヶ所を巡り、チョツと疲れたな。

五月十八日 日曜日

只今八時四五分東急田園都市線で中央林間に向かっている。森の学校の第二回目の地元説明会だ。日曜日がズーツと休めていないので流石に家内もあきれ顔で、「何処かで倒れたって知らないわよ」だって。倒れるつもりは毛頭無いが、少し異常だな現状は先程井の頭線で動いている中で沖縄計画のアイデアが浮かんでメモする。

昨日の高橋さんの家訪問を思い起こしている。あの家族の為に住宅で何かしてさし上げる事ができれば、住宅の可能性はデザインの可能性を超えるだろう。生命維持体としての住宅という概念が生まれる。マイノリティーの仕事の行き着くところはコレかも

知れない。もうあんまり文句言わないで、対面している諸問題に  
対してゆくしかないだろうな。対面している問題は皆一級品だと  
考えてしまおう。九時四〇分内山自治会館。住民説明会の準備。  
まことに建築は建てにくい状況になったが、人間の生活を第一に  
考える立場で押し通す。自然保護も大事だが現実の人間の生活は  
それを基盤にしながら、さらに大事な問題なのだ。

十一時半説明会終了。すぐに伊豆海岸安良里にむけて発つ。途  
中、足柄で昼食。十四時半過安良里。藤井邸現場着。マアマア良  
く出来ているが、二、三の問題あり。十八時前現場打ち合わせ修  
了。二十数年来の友人である、森秀己、鈴木敏文、小林興一、藤  
井晴正と夕食。本当に久しぶりに気持ちも安らいで、良い時間を  
過ごす事が出来た。ほんの束の間の時間ではあったが、三ヶ月分  
位の休息を得た。古い友人は有難い。と言っても、あんまり時間  
は残されていないんだよね。

二十二時東名を走り世田谷に帰る。オープンテック・ハウスシ  
リーズも<sup>3</sup>の藤井晴正邸で少し安定した質を得たと思う。

五月十九日

小雨模様の朝である。十時地下ミーティング。昨日の伊豆は良  
い時間を過ごさせて気持ちは少し和んでいる。時々伊豆に行きたい  
ね。それぞれのプロジェクトの担当者が決められずミーティング  
は夕方まで続いてしまう。要するに地下のレベルが崩壊してらっ  
て事。気を取り直して前へ行こう。後ろを向いたらダメだ。